

令 和 5 年 度

# 事 業 報 告



日本赤十字社 愛知県支部  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

## はじめに

会員の皆様方をはじめ関係各機関の方々には、赤十字事業の推進に格別のご理解とご支援を賜わり誠にありがとうございます。

当初の計画どおり災害救護事業をはじめ医療事業や血液事業の推進、看護師養成事業、救急法等講習の普及、青少年赤十字活動の支援と赤十字奉仕団の育成、福祉事業の展開、国際救援活動への職員派遣など円滑に遂行することができました。

日本赤十字社の重要な責務である災害救護事業については、1月に能登半島を中心に甚大な被害をもたらした「令和6年能登半島地震」に対して、救護班、こころのケア要員等を派遣し、被災地で医療救護活動やこころのケア活動を行いました。

また、行政及び関係団体と連携した訓練として、「地域のための防災・減災訓練」を令和5年度は田原市で開催しました。地域住民による避難所開設訓練と連携した医療救護実働訓練に加え、地域奉仕団や関係機関の協力を得ながら、地域住民の方々に赤十字防災セミナー等を実施したほか、地元の小学校では全校児童を対象に防災教育プログラムを行うなど、幅広い世代の方々に、防災・減災について普及啓発を行いました。

医療事業においては、新型コロナウイルス感染症が5月に2類感染症から5類感染症へと変更されたことにより、名古屋第一病院及び名古屋第二病院のコロナ医療体制も徐々に縮小し平時の診療業務に移行しました。名古屋第一病院では内視鏡エリアを拡充、一部病床をHCU（高度治療室）に機能転換、入退院支援・相談機能を強化・拡充しました。名古屋第二病院においては、9月に患者安全と医療の質の向上を継続的に推進することを目的とした国際的第三者評価機関「JCI」の2回目の更新、最新型の電子カルテへの更新を行いました。

血液事業においては、安全な血液を安定的に確保するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進を図るとともに、血液・献血セミナーや各種広報活動により県民の皆様に対し献血への理解を求めました。また、広域事業運営体制を最大限活用することにより、需給管理等事業の効率的運営に努めました。

講習事業においては、対面、オンライン、DVDを活用した方式など、受講者ニーズにあった方法で講習会を開催いたしました。また、救急法及び水上安全法については、指導員養成講習を実施し、新たな指導員を養成しました。

赤十字奉仕団においては、防災・減災の知識・技術を普及する活動や、子ども・子育て世代の支援、多文化共生社会の実現に向けた取り組みなど、県内各地で地域ニーズに対応した奉仕団活動が行われました。

青少年赤十字の活動においては、リーダーシップ・トレーニング・センターやこども新聞プロジェクト等の事業を学校教職員並びに教育行政機関の理解と協力を得ながら展開しました。また、国際交流事業としてモンゴル赤十字社から青少年赤十字メンバーと指導者の受け入れを4年ぶりに行い、国際理解と親善を深めました。

国際活動においては、支援を必要としている国々の開発協力に本社を通じて協力するとともに、海外での災害時緊急援助や復興支援、開発協力のための救援金の受付を行いました。

これらの活動は、会員をはじめとした社資にご協力いただいた皆様、活動の担い手である赤十字奉仕団等ボランティアの皆様、活動を支えていただいている地区・分区などの関係機関の皆様の多大なご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

当支部では、これからも人道をはじめとする赤十字の諸原則に基づき、社会ニーズに迅速かつ的確に応えられるよう尽力して参りたいと存じます。

今後とも皆様の格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年6月

日本赤十字社愛知県支部

## 目 次

1. 評議員会	1
2. 社資募集	2
3. 災害救護事業	4
4. 医療事業	12
5. 看護師養成事業	14
6. 血液事業	16
7. 講習事業	18
8. 赤十字奉仕団	22
9. 青少年赤十字	27
10. 福祉事業	33
11. 国際活動	35
12. 赤十字の普及	38



## 1. 評議員会

評議員会は、日本赤十字社定款第71条により、支部の重要な業務について審議し、支部長の諮問に答えるほか、本社代議員、支部長、副支部長及び監査委員の選出にあたることになっており、本年度は次のとおり実施した。

議決日	議案
令和5年6月9日	(1) 令和4年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出決算について
令和5年7月24日	(1) 日本赤十字社愛知県支部副支部長の選出について (2) 日本赤十字社代議員の選出について
令和6年2月1日	(1) 令和6年度事業計画について (2) 令和6年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出予算について (3) 日本赤十字社愛知県支部監査委員の選出について

## 2. 社資募集

日本赤十字社は、会員をもって組織される認可法人であり、会員の納入する会費と寄付金によって事業を実施している。

赤十字活動を継続的に支援する会員の確保に努めるとともに、多様な受け入れ方法を取り入れ、社資増強を図った。

### 社資の募集状況

#### 令和5年度社資募集実績

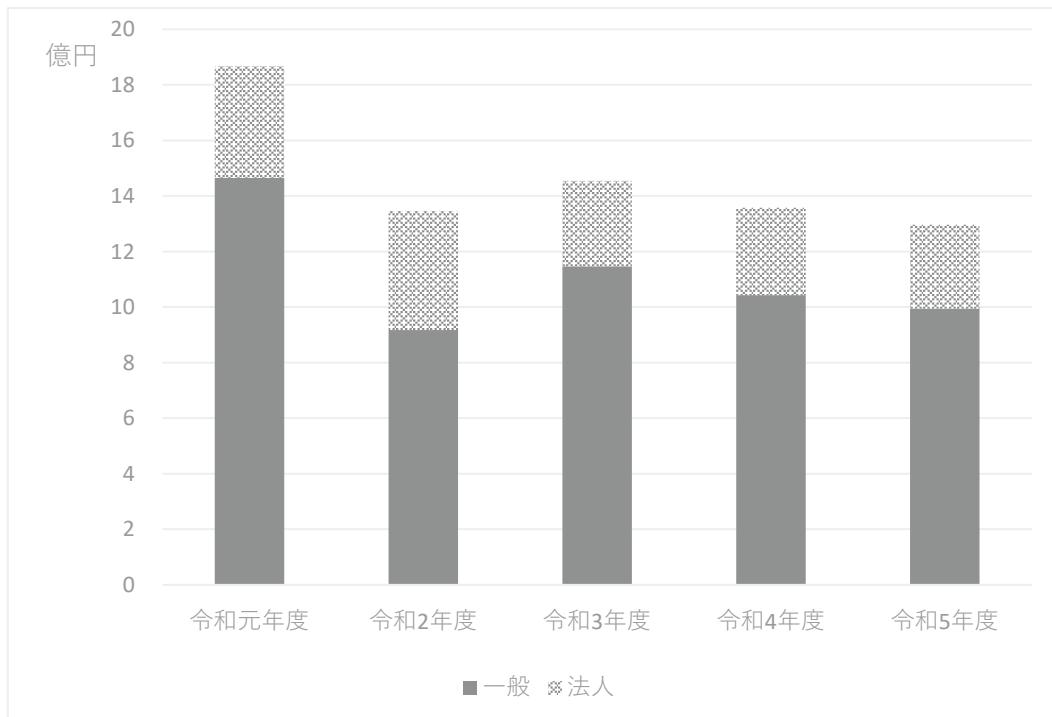
合計	内訳				
	一般社資 995,152,534円			法人社資 301,309,846円	
	会費	寄付金	指定個人社資	指定法人社資	その他法人社資
円 1,296,462,380	円 559,409,418	円 292,642,549	円 143,100,567	円 151,000,000	円 150,309,846

※指定個人社資は個人住民税の寄付金控除対象となる海外救援金を含む。(8,100,567円)

#### 令和5年度社資募集実績の内訳

	一般社資	法人社資	計
支部が直接募集した社資実績	円 581,471,629	円 289,081,047	円 870,552,676
地区分区が募集した社資実績	413,680,905	12,228,799	425,909,704

#### 過去5年間の社資募集実績の推移



## ○県内地区・分区社資実績

(令和5年度社資実績)

地区・分区名	社資実績(円)	地区・分区名	社資実績(円)
16区地区		東海市地区	8,296,600
千種区地区	6,104,529	大府市地区	9,518,650
東区地区	3,512,280	知多市地区	6,746,610
北区地区	4,260,019	知立市地区	4,332,960
西区地区	6,478,187	尾張旭市地区	4,024,308
中村区地区	5,189,726	高浜市地区	2,336,750
中区地区	2,996,000	岩倉市地区	2,684,346
昭和区地区	3,676,939	豊明市地区	5,632,180
瑞穂区地区	3,570,040	日進市地区	3,562,625
熱田区地区	2,897,735	田原市地区	1,803,970
中川区地区	6,721,526	愛西市地区	4,595,726
港区地区	6,426,913	清須市地区	5,059,160
南区地区	6,680,280	北名古屋市地区	6,006,296
守山区地区	5,847,751	弥富市地区	2,983,567
緑区地区	9,602,757	みよし市地区	3,630,113
名東区地区	5,880,966	あま市地区	5,253,540
天白区地区	5,010,837	長久手市地区	2,903,010
37市地区		地 区 計	389,781,903
豊橋市地区	10,234,865	16町村分区	
岡崎市地区	26,703,491	東郷町分区	2,980,127
一宮市地区	33,807,106	豊山町分区	1,155,220
瀬戸市地区	7,170,143	大口町分区	2,032,000
半田市地区	12,815,976	扶桑町分区	2,328,670
春日井市地区	17,682,512	大治町分区	2,066,092
豊川市地区	10,699,268	蟹江町分区	2,752,412
津島市地区	4,058,194	飛島村分区	534,500
碧南市地区	4,665,100	阿久比町分区	3,197,850
刈谷市地区	13,090,477	東浦町分区	5,717,257
豊田市地区	7,174,882	南知多町分区	1,096,300
安城市地区	13,857,057	美浜町分区	2,359,377
西尾市地区	9,639,947	武豊町分区	5,353,300
蒲郡市地区	4,760,736	幸田町分区	3,537,240
犬山市地区	8,253,419	設楽町分区	738,956
常滑市地区	6,313,300	東栄町分区	128,000
江南市地区	6,444,484	豊根村分区	150,500
小牧市地区	10,690,420	分 区 計	36,127,801
稻沢市地区	11,840,600	総計	425,909,704
新城市地区	5,653,030		

### 3. 災害救護事業

災害救護は、日本赤十字社法（昭和27年法律第305号）に明示された、赤十字の最も重要な事業である。また、災害救助法（昭和22年法律第118号）では、国又は都道府県知事の行う救助業務に対する協力が義務づけられ、さらに、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）及び大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）においても、指定公共機関として防災に関する各種計画立案とその実施の責任を課せられている。

愛知県地域防災計画には、当支部の行う業務の大綱として「医療、助産、その他の救助を実施する」ことが明示されており、これに応えるべく、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等大規模災害への対応に万全を期すため、訓練・研修等を行って体制の強化・充実を図った。

#### （1）災害救護活動

##### ア. 令和6年能登半島地震に対する日本赤十字社愛知県支部の対応

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震に際して、日本赤十字社は全社を挙げて被災者支援を行い、愛知県支部も発災日から活動を開始し、県内の赤十字施設から被災地への医療救護班の派遣や災害医療コーディネートチームの派遣、救援物資の搬送等を実施してきた。

医療救護班等の派遣状況

派遣内容	延べ人数
医療救護班	109
災害医療コーディネートチーム	17
石川県支部災害対策支援要員	23

救援物資の搬送

内容	数
毛布	800枚
安眠セット	114セット
簡易間仕切り	40セット

令和6年3月31日現在

医療救護班は、特に大きな被害が生じた石川県珠洲市・輪島市を中心に派遣され、その活動は医療救護だけに留まらず、慣れない避難所生活やその後の生活に対する不安など多くの困難を抱える方々の声に耳を傾ける等、広く被災者支援を実施した。

また、愛知県からの要請に基づき高齢者施設避難者の広域医療搬送、DMAT派遣等も実施したほか、救援物資の運搬や県内各地での義援金の募金活動等について多くの赤十字奉仕団員にも協力いただいた。



避難所となった体育館で活動する救護班



備蓄された物資を運搬するボランティアと職員

#### イ. 非常配備

台風接近や大雨にともない、災害救護活動が迅速かつ的確に行えるよう非常配備体制をとった。

#### (2) 救援物資の配布と弔慰金の支給

火災や浸水によって被災した世帯を対象に救援物資を配布し、また不幸にして亡くなられた方のご遺族に弔慰金を支給した。

#### ア. 救援物資の備蓄状況

(令和5年度末現在)

毛 布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	ブルーシート
22,523 枚	18,008 枚	5,234 セット	6,286 セット	1,000 枚
マスク	段ボールベッド	パーテーション		
400 箱	196 セット	160 セット		

#### イ. 救援物資等の配布状況

(令和5年度末現在)

全 燃					半 燃					消 火 冠 水				
世帯	人数	毛布	タオル ケット	緊急 セット	世帯	人数	毛布	タオル ケット	緊急 セット	世帯	人数	毛布	タオル ケット	緊急 セット
世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット
91	191	184	83	80	22	60	32	16	26	3	7	4	3	3
住家床上浸水					その他									
世帯	人数	毛布	タオル ケット	緊急 セット	世帯	人数	毛布	タオル ケット	緊急 セット	世帯	人	枚	枚	セット
世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット
5	15	7	10	5	110	66	49	150	125					



【救援物資の一例（緊急セット）】

#### ウ. 弔慰金の支給額

人数	支給額 (10,000円／人)
22人	220,000円

### (3) 救護装備の整備

大規模災害の発生に備え、支部、施設、地区・分区に救急車をはじめとした各種の救護用資機材を整備している。

令和5年度は、地区・分区に救護用自動車を5台配備したほか、蓄電池や簡易トイレなどの資機材、合計10品目1,305点を配備した。

#### ア. 愛知県支部における主な救護装備の整備状況

区分 品名	業務用無線局				アマチュア無線局	簡易無線局	衛星携帯電話・ファックス	救護装備・資材									
	157.73 MHz		415.2625 MHz					救護用車両	発電機	蓄電池	医療セット	携帯型医療セット	医療セット置台	テント			
	基地局	移動局	基地局	移動局				両	機	池	ト	ト	台	ン			
令和5年度末現在数	3	44	1	33	2	36	18	21	20	10	8	4	8	12	5		

	救護装備・資材													
	リフトテント	フレームテント(DRASH)	投光器	移動炊飯器	折り畳み寝具(簡易ベッド)	担架	担架架台	拡声器	折り畳み椅子	防災ボート	モバイルPC	タブレット	モバイルWi-Fi	
令和5年度末現在数	3	4	18	13	256	70	16	19	22	51	1	22	12	11

	救護員被服装具						
	ヘルメット	救護服	雨ガッパ	防寒着	ベス	ヘッドライト	編上靴
令和5年度末現在数	217	2,020	344	438	210	157	430

イ. 地区・分区における救護装備の整備状況

品 名	救 護 用 自 動 車	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		移動炊飯器 (LPG・薪両用)	移動炊飯器 (LPG・ 灯油両用)	移動炊飯器 (LPG)	移動炊飯器 (両用・小)	災害用簡易トイレ 要援護者対応	災害用簡易トイレ	携帯トイレセット	救護用天幕 (スチール)	救護用天幕 (アルミ)	毛布	救護用資材保管庫
令和5年度 配備数	5					7	34	684				
令和5年度 未現在数	65	314	21	140	84	330	684	7,661	1,274	17	10,561	236

12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
投光器付発電機	バルーン投光器	車椅子	特定小電力 トランシーバー	携帶用拡声器	折り畳みベッド	折り畳み机	折り畳み椅子	担架	ランタン	ラジオ付強力ライト	
443	170	417	455	1,200	375	1,431	919	586	21	635	1,105

24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ブルーシート	ゴムボート	折り畳みリヤカー	(折り畳み式救護車) レスキュー車	簡易ストレッチャー	避難所用簡易間仕切り +暖ボール畳	避難所用簡易間仕切り	ワンタッチパークーション (避難所用簡易間仕切り)	プライベートルーム	災害緊急避難所用マット	AED (収納スタンダード付)	AED (移動式)	発電機 (ガソリン)
3,219	60	315	30	331	373	588	2,917	945	1,042	86	18	142

37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	合計
工具セット	防災ボート	折り畳み式水用ポリタンク セット(10トリック×10個)	エアーマットセット	簡易ベッド	簡単テント	スポットクーラー	ジョイントマット	蓄電池	氣化式冷風機	
			82	51			137	36	16	1,305
110	2	394	444	213	16	88	238	76	39	40,765

#### (4) 救護班と救護班要員の登録

当支部では、災害時に活動できるよう研修等を修了した職員を救護員として登録している。

災害発生と同時に直ちに医療救護活動ができるよう、登録された救護員で救護班を編成しており、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の医師、看護師等で編成した常備救護班19個班、928名（災害対策本部要員等を含む）を下記のとおり設置している。

#### 救護班要員の登録状況

(令和5年度)

区分 施設	救護班編成数	本災部害要対員策	救護班要員						血液供給要員	特殊救護要員	合計
			医師	看護師長	看護師	助産師	薬剤師	主事			
第一病院	個常備10	人8	人29	人37	人228	人18	人13	人77	人—	人80	人490
第二病院	常備9	4	28	33	185	13	14	33	—	46	356
血液センター	—	5	—	8	8	—	—	21	5	3	50
支部	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	23
豊田看護大学	—	—	—	—	3	—	—	6	—	—	9
合計	19	40	57	78	424	31	27	137	5	129	928

#### (5) 救護員のための訓練・研修

各種防災訓練への参加や研修会の実施により、救護員の技術向上を図った。

ア. 訓練

行 事 名 (主催者)	年 月 日	実施状況及び参加状況(人)	場 所
木曽三川連合総合水防演習 (国土交通省中部地方整備局)	令和5年5月21日	支部 あま市赤十字奉仕団 大治町赤十字奉仕団 1 5 5	愛西市
中部国際空港緊急計画連絡協議会 図上シミュレーション訓練 (中部国際空港株式会社)	令和5年8月3日	支部 第二病院 2 2	常滑市
令和5年度豊橋市総合防災訓練 (豊橋市)	令和5年8月26日	血液センター 1	豊橋市
愛知県災害対策本部運用訓練 (愛知県)	令和5年9月1日	支部 2	名古屋市
令和5年度愛知県・安城市総合防災訓練 (愛知県・安城市)	令和5年9月3日	支部 第二病院 血液センター 4 6 2	安城市
なごや市民総ぐるみ防災訓練 (名古屋市)	令和5年9月3日	支部 第一病院 第二病院 愛知県赤十字安全奉仕団 7 2 2 7	名古屋市
大規模地震時医療活動訓練 (厚生労働省DMAT事務局)	令和5年9月30日	第二病院 2	徳島県等
県営名古屋空港消火救難総合訓練 (愛知県)	令和5年10月5日	支部 第一病院 3 6	豊山町
中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練 (中部国際空港株式会社)	令和5年10月12日	支部 第二病院 血液センター 3 6 2	常滑市
地域のための防災・減災訓練	令和5年10月21日	支部 第一病院 第二病院 22 12 11	田原市
名古屋市災害対策本部運用訓練 (名古屋市)	令和5年10月25日	支部 2	名古屋市
令和5年度愛知県南海トラフ地震時医療活動訓練 (愛知県)	令和5年11月14日	支部 第一病院 第二病院 1 2 2	名古屋市
日本赤十字社第3ブロック支部 合同災害救護訓練	令和5年11月16日 令和5年11月17日	支部 第一病院 第二病院 21 16 7	愛知県
令和5年度愛知地区海上救急慣熟訓練 ((公財)日本水難救済会)	令和5年12月20日	支部 第一病院 2 2	常滑市



【各種訓練の様子】

## イ. 研修

行 事 名	年 月 日	実施及び参加状況 (人)
令和5年度第1回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修	令和6年能登半島地震対応のため中止	—
令和5年度第2回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修	令和6年能登半島地震対応のため中止	—
令和5年度第1回こころのケア研修	令和6年能登半島地震対応のため中止	—
令和5年度第2回こころのケア研修	令和6年能登半島地震対応のため中止	—
第1回日赤災害医療コーディネート研修会	令和5年7月8日～9日	第一病院 1 第二病院 1
令和5年度第1回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和5年8月1日	第二病院 2
令和5年度全国赤十字救護班研修会◎	令和5年8月19日～20日	第二病院 1
令和5年度愛知県災害医療コーディネート研修	令和5年8月27日	第二病院 2
令和5年度第2回中部ブロックDMAT技能維持研修及び第1回中部ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティックス研修	令和5年8月28日～29日	第一病院 2 第二病院 1
第2回日赤災害医療コーディネート研修	令和5年9月23日～24日	第一病院 1
令和5年度中部ブロックDMAT実働訓練	令和5年10月14日～15日	第一病院 4
令和5年度第3回及び第4回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和5年10月23日 令和5年10月24日	第二病院 4
令和5年度DMATロジスティックチーム隊員養成研修	令和5年12月26日～27日	第二病院 3
令和5年度愛知DMAT隊員養成研修	令和6年3月16日～17日	第一病院 4

## ( 6 ) 臨時救護

祭礼や地方公共団体の行事等多数の人が集まるところに救護員等を派遣して傷病者の救護を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の行事は中止となったが、令和5年度は42回実施し、救護員等延べ83人を派遣。臨時救護員によるものにおいては、79人を救護した。

### 臨時救護実施状況 ※代表的なもののみ掲載

行 事 名	年月日	救護員派遣人数	場 所
アイアンマン70.3 東三河ジャパンin渥美半島	令和5年 6月10日	支部 2 第二病院 6 災害救護奉仕団 4	田原市 豊橋市
国府宮はだか祭	令和6年 2月22日	支部 2 第一病院 5 尾張赤十字救急奉仕団 6	稻沢市

## (7) 義援金の受付（国内）

国内で発生した災害に際し義援金の受付を行った。

義 援 金	寄 託 額 (円)
令和5年5月能登地方地震災害義援金	2,676,485
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	1,857,477
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	795,592
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	2,310,685
令和5年台風第6号災害義援金	628,363
令和5年台風第13号災害義援金	757,154
令和6年能登半島地震災害義援金	271,816,012
合計	280,841,768

## (8) 赤十字防災ボランティアの養成

災害時に被災者に対して、応急救護や復旧等の活動を行うための赤十字防災ボランティアの養成・研修を実施した。

名 称	開催日	参加人数(人)
防災ボランティア養成研修会 (特別赤十字奉仕団)	令和5年8月19日	21
赤十字防災ボランティア・地区リーダー養成研修会 (地域赤十字奉仕団)	令和5年10月11日	18
防災ボランティアのこころのケア研修	令和5年9月23日	21
防災ボランティアのこころのケア研修 (地域赤十字奉仕団・派遣型)	令和5年11月1日	24
愛知県支部防災ボランティアセンター設置訓練 (特別赤十字奉仕団) ※第3ブロック合同灾害救護訓練の一部として実施	令和5年11月17日	13
赤十字防災ボランティア・フォローアップ研修 (特別赤十字奉仕団)	令和5年12月9日	4
赤十字防災ボランティア・地区リーダーフォローアップ研修 (地域赤十字奉仕団)	令和6年能登半島地震対応 のため中止	-

## (9) 防災ボランティアにかかる愛知県との連携

「防災のための愛知県ボランティア連絡会」へ職員及び赤十字防災ボランティアを派遣したほか、広域ボランティア支援本部運営訓練への参加や愛知県防災ボランティアコーディネーター講座への参加及び実施協力を行った。

また、令和5年に新たに設置された「災害中間支援組織設立に向けての検討会」にも参加した。

## 4. 医療事業

赤十字の医療施設は、平時は公的医療機関として一般の診療業務を行い、災害時には被災患者の収容を行うとともに、医師、看護師、主事等からなる救護班を編成し、災害現場に派遣するなど災害救護活動の重要な一翼を担っている。

当県では名古屋市内に2病院を設置しており、両病院ともに災害拠点病院（地域中核災害医療センター）の指定を受け、災害時の救護活動を行うほか、平時には救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターとしてその機能を発揮し、小児・腎・循環器医療など先進医療に積極的に取り組んでいる。地域住民への更なる安心と高いレベルの医療を提供できるように、機能統合と一体的運営の体制整備を進めており、その一環として令和3年7月に「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院」「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院」と病院名称を変更した。

昨今、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症に対する取り組みとしては、5月に2類感染症から5類感染症へと変更されたことにより、両病院のコロナ医療体制も徐々に縮小し平時の診療業務に移行した。

このほかに各病院の取組として、名古屋第一病院では内視鏡エリアを拡充すると併に、一部病床をHCU（高度治療室）に機能転換した。さらに、入退院支援・相談機能を強化・拡充した。名古屋第二病院においては、9月に患者安全と医療の質の向上を継続的に推進することを目的とした国際的第三者評価機関「JCI」の2回目の更新を行った。また、翌2月には最新型の電子カルテへの更新を行い、デジタル化による業務のより一層の効率化と医療安全の向上を図った。



【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院】



【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院】

(1) 病院の概要

区分 施設	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
所 在 地	名古屋市中村区道下町3-35	名古屋市昭和区妙見町2-9
診 療 科	<p>[34科]            [診療科] 内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、化学療法内科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、小児科、精神科、皮膚科、泌尿器科、女性泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、臨床検査科</p>	<p>[27科]            [診療科] 内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、救急科、薬物療法内科、病理診断科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科</p>
病 床 数	852 床	806 床
職 員 数	1,742人	1,774人
開 設 年 月	昭和12年4月	大正3年12月

(2) 患者の利用状況

区分 施設名	外 来		入 院	
	新患者数	延患者数	新患者数	延患者数
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院	29,618人	343,363人	19,830人	238,221人
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院	51,078人	389,685人	22,672人	227,517人
合 計	80,696人	733,048人	42,502人	465,738人

## 5. 看護師養成事業

赤十字看護師の養成事業は、長い歴史と伝統をもつ赤十字の重要な事業の一つであり、災害救護の要員を確保するとともに、医療施設における看護職員の充足を図り、併せて海外での災害、紛争犠牲者を救援する国際医療救援要員として活躍できる質の高い看護師養成を目的としている。

さらに、平成19年11月の赤十字国際会議において、日本赤十字社が「災害看護に一層重点を置くことを通じて、災害が多発するアジア・太平洋地域の赤十字社と協力しながら災害看護教育を推進する。」と誓約したことを踏まえ、大学における災害看護教育の充実を図っている。

### (1) 日本赤十字豊田看護大学

医療の高度化、専門化に的確に対応できる質の高い看護師、国際医療救援活動にも対応できる国際性豊かな看護師、将来の救護員としての赤十字看護師を育成することを目的に、学校法人日本赤十字学園日本赤十字豊田看護大学で看護師養成事業を実施している。

日本赤十字豊田看護大学は、平成16年の開学以来、卒業生の約7割が日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を中心とした赤十字病院へ就職している。

平成22年4月1日に開学した大学院看護学研究科修士課程看護学専攻では、保健・医療・福祉の現場でより高度な専門性を發揮できる看護職者や看護管理者、看護学の発展に寄与する研究者を養成している。加えて、平成28年4月1日には大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程を開設した。

令和5年度は、コロナ禍で中止していた海外語学研修を再開し、オーストラリアへ学生を派遣したほか、修士課程においては社会ニーズに応えるため老年・在宅看護学CNSコースを開設した。さらに、開学20周年を迎え、11月11日に記念式典を举行とともに、講堂LEDビジョンの設置や防災・減災シンポジウムの開催など様々な記念事業を実施した。

学 校 区 分	養 成 人 員				
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	合 計
大 学	人 133	人 138	人 139	人 117	人 527
大学院（修士）	人 4	人 11			人 15
大学院（博士）	人 1	人 3	人 8		人 12



【海外語学研修（オーストラリア）】



【災害看護学演習】

日本赤十字社愛知県支部では優秀な救護員としての赤十字看護師を安定的に確保するための事業として「日本赤十字社愛知県支部特別奨学金貸与規程」を制定し、令和5年度は新入学生4名をはじめ、26名の学生に対して奨学金を貸与した。

なお、平成30年度からは日本赤十字豊田看護大学独自の制度として特待生制度が導入されており、優秀な成績を修めた学生は授業料が免除され、令和5年度は15名の学生が対象となった。

## （2）幹部看護師の教育

病院の看護業務指導者並びに救護班の看護師長を育成するため、本社の幹部看護師研修センターに適任者を派遣して修学させた。

コース	派遣者数（人）
赤十字看護師管理者研修 I	2
赤十字看護師管理者研修 II	3
こころのケア指導者養成研修	1

## 6. 血 液 事 業

当支部では、愛知県赤十字血液センターを設置し、安全な輸血用血液製剤を医療機関へ供給している。また、安全な血液を安定的に確保するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進を図るとともに、血液・献血セミナー各種広報活動により県民の皆様に対し献血への理解を求めている。また、広域事業運営体制を最大限活用することにより、需給管理等事業の効率的運営に努めている。

### (1) 血液センターの概要

(令和5年度末現在)

施設 区分	愛知県赤十字血液センター
所在 地	瀬戸市南山口町539-3
事業所・出張所	1事業所・6出張所（献血施設9か所）
移動採血車	11台
職 員 数	353人
開 設 年 月	昭和37年10月

### (2) 血液の確保状況

施設	200mL		400mL		成 分				合 計	
					血漿		血小板			
	献血者	献血量	献血者	献血量	献血者	献血量	献血者	献血量	献血者	献血量
愛知県全体	人 6,966	リットル 1,393.2	人 173,369	リットル 69,347.6	人 78,877	リットル 43,382.4	人 35,270	リットル 19,751.2	人 294,482	リットル 133,874.4

### (3) 血液の供給状況

(単位 : 200mL換算)

施設	区分		全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合 計
	献血者	献血量	単位	単位	単位	単位	単位
愛知県全体	人 0	リットル 353,535	単位 130,239	単位 459,695	単位 943,469		



【血液を待つ患者さんのもとへ】

#### (4) 献血推進広報

主なキャンペーンとして、下記のとおり実施し、献血の普及啓発を図った。

- ・「世界献血者デー」キャンペーン (6月)
- ・献血ポスターコンペティション (7月～9月)
- ・愛の血液助け合い運動 (7月)
- ・複数回献血キャンペーン (7月～3月)
- ・10代夏の献血キャンペーン (7月～9月)
- ・東海北陸ブロック学生サマー献血キャンペーン (8月)
- ・令和5年度献血推進方策「つなげ、その「ち」から」 (9月～4月)
- ・オータム献血キャンペーン (11月)
- ・全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月)
- ・「はたちの献血」キャンペーン (1月～2月)
- ・卒業献血キャンペーン (1月～3月)
- ・愛知県学生スプリング献血キャンペーン (3月)



献血推進キャラクター  
けんけつちゃん

##### ア. 献血に関する普及啓発活動

県及び市町村との連携により、献血啓発用ポスター・パンフレット等を県内市区町村や献血団体及び献血推進団体へ配布し、献血者確保に努めた。また、若年層を中心に献血を広く周知するため、小学生を対象とした「親子血液教室」をはじめ、「血液・献血セミナー」及び施設見学を実施した。

##### イ. はたちの献血キャンペーン

県内民間放送局（TV局5社、ケーブルTV局9社、AMラジオ局2社、FMラジオ局2社、コミュニティFMラジオ局9社）でのCM放送、献血協力団体でのキャンペーンポスターの掲示により、献血の普及啓発を行った。

##### ウ. ホームページ及びX等のSNSの活用

各種献血キャンペーンの告知や献血会場のお知らせ等、若年層をはじめ一般の方へ献血の普及啓発を行った。

#### (5) 検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、健康管理に資する検査を行い、希望者には血液生化学検査成績・血球計数検査成績を通知している。

#### (6) 学生献血連盟との協働

大学生を中心とした若年層の献血推進及び普及啓発を目的とする愛知県学生献血連盟と協働し、各キャンペーン等を実施した。

#### (7) 献血Web会員サービス「ラブラッド」プレ会員制度の導入

献血Web会員サービス「ラブラッド」スマホアプリに、16歳未満の方でも登録できるプレ会員制度が導入されたことに伴い、若年層に対する利用者登録と初回献血協力を推進した。



【血液・献血セミナー】



【夏休み親子血液教室】



【学生クリスマス献血キャンペーン】

## 7. 講習事業

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を具現化することを目的に、「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」の各種講習普及事業を実施している。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による講習実施要件が緩和され、対面式の講習を通じて知識・技術を普及できた。また、感染症蔓延状況下で構築したオンラインでの講習会及び事前に録画したDVDを使用した講習会など、主催団体の希望に沿った講習普及事業を展開した。

子ども子育て世代への事業展開としては、幼児安全法のオンライン講習も引き続き実施し、育児でなかなか外出できない方々への講習普及につなげている。また、幼児安全法の一部を映像化し、動画視聴サイトに公開することで、事故予防や起こりやすい事故への対応方法を確認するとともに、講習への興味関心をもってもらう働きかけを行っている。

### (1) 救急法

＜一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習＞

病気・怪我や災害から自分自身を守るとともに、急病人やけが人を正しく救助して、医師等に引き渡すまでの応急手当の講習を実施している。

指導員派遣の他、オンラインとDVDの活用により、可能な限り依頼に応えるよう取り進めている。

基礎講習		救急員養成講習			短期講習		指導員養成講習			※再掲 オンライン（短期）		※再掲 DVD（短期）	
実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
回 57	人 1,187	回 40	人 615	人 590	回 337	人 11,844	回 2	人 28	人 20	回 28	人 726	回 12	人 364

#### ○基礎講習（4時間）

救急法概論、心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去

#### ○救急員養成講習（約10時間）

赤十字救急法救急員について、急病、止血、けが・きずの手当、骨折の手当、搬送、救護等

#### ○短期講習（1～2時間程度）

心肺蘇生・AEDの使い方、包帯法等



【救急法短期講習（心肺蘇生）】

## (2) 水上安全法

<一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習>

健康の増進を図るとともに水の事故から生命を守るための知識や技術についての講習を実施している。令和5年度は、支部主催にて、海での短期講習の他、救助員養成講習を実施した。

救助員Ⅰ養成講習			救助員Ⅱ養成講習			短期講習		指導員養成講習		
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数
3回	60人	49人	1回	8人	8人	24回	1,096人	1回	5人	5人



【水上安全法短期講習（親子レスキュー）】

### ○救助員養成講習Ⅰ（14時間：プール）

赤十字水上安全法について、水の活用と事故防止、安全な水泳と自己保全、安全管理と監視、溺者救助

### ○救助員養成講習Ⅱ（12時間：海）

自然水域における水の事故防止、自然水域における溺者救助と搬送

### ○短期講習（1～2時間程度）

身近なものを使っての救助法、着衣泳等

## (3) 健康生活支援講習

<一般普及講習及び短期講習>

健康増進・介護予防など必要な知識と高齢者の自立をめざした介護の方法についての講習を実施している。また、災害時、避難所で不自由な生活において有用な知識・技術を学ぶ講習として、災害時生活支援講習の普及にも力を入れている。

支援員養成講習			短期講習		災害時生活支援講習		※再掲 オンライン（短期）	
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
8回	193人	181人	50回	1,689人	51回	2,023人	3回	10人

#### ○支援員養成講習（12時間）

高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援（リラクゼーション、車椅子の操作方法等）、日常生活における介護（からだの動かし方、食事・排泄について、認知症高齢者への対応等）

#### ○災害時生活支援講習（2時間程度）

災害について、ボランティアの心得、知って役立つ技術（ホットタオルの作り方、毛布を使ってガウンを作る方法等）



【健康生活支援講習短期講習（足浴）】

#### ○短期講習（1～2時間程度）

高齢者の事故予防と手当の方法、癒しのハンドケア、介護の方法等

#### （4）幼児安全法

##### <一般普及講習及び短期講習>

子どもに起こりやすい事故の予防と救命手当・応急手当の方法、家庭内での看病の方法についての講習を実施している。令和5年度も、子育て世代への支援を重点にオンラインでの幼児安全法短期講習を実施した。

支援員養成講習			短期講習		※再掲 オンライン（短期）	
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
15回	209人	192人	154回	4,841人	3回	1,483人

○支援員養成講習（10時間）

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気と看病、子育てにおける社会資源の活用、災害時の乳幼児支援

○短期講習（1～2時間程度）

幼児の心肺蘇生・AEDの使い方、ハンカチ・パンストを使った包帯法等



【幼児安全法短期講習（気道異物除去）】

## 8. 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人びとが集まって結成された、日本赤十字社における奉仕者組織であり、赤十字事業推進の基盤として重要な役割を果たしている。

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに組織される「地域赤十字奉仕団」、また「特別赤十字奉仕団」として、青年や学生によって組織される「青年赤十字奉仕団」と特殊技能を持った人たちによって組織される「特殊赤十字奉仕団」がある。

令和5年度においては、防災・減災の知識・技術を普及する活動や、子ども・子育て世代の支援、多文化共生社会の実現に向けた取り組みなど、県内各地で地域ニーズに対応した奉仕団活動が行われた。また当支部においても新たに赤十字防災セミナー指導者を養成したほか、奉仕団による子ども食堂等の取り組みを支援した。

### (1) 赤十字奉仕団結成状況

#### ア. 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和5年度末現在)

団数	分団数	班数	団員数		
			男	女	合計
65	351	4,399	6,173	10,238	16,411

#### イ. 特別赤十字奉仕団の結成状況

(令和5年度末現在)

団数	分団数	班数	団員数		
			男	女	合計
18	13	16	1,009	451	1,460

### (2) 奉仕団活動

#### ア. 地域赤十字奉仕団の活動状況

(令和5年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
616	6,916	445	12,684	18	170	73	424	320	2,597
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		子ども・子育て支援における活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
0	0	93	235	101	639	27	170	100	637
その他の活動									
延回数	延回数								
111	2,388								

## イ. 特別赤十字奉仕団の活動状況

(令和5年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
回 65	人 323	回 111	人 270	回 7	人 8	回 4	人 27	回 42	人 108
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		子ども・子育て支援における活動	
延回数 3	延人数 8	延回数 0	延人数 0	延回数 0	延人数 0	延回数 12	延人数 52	延回数 12	延人数 55
その他の活動									
延回数 170	延回数 640								

### (3) 地域赤十字奉仕団活動事業

#### ア. 地域赤十字奉仕団特別事業

地域赤十字奉仕団活動の充実を図るため、  
「児童の健全育成」の活動を推進しており、  
2つの団で実施された。



【保育園での防災教育】

#### イ. 地域赤十字奉仕団員に対する講習指導員資格

取得及び技能向上に対する支援事業

(愛称：地域いきいき講習サポート事業)

地域赤十字奉仕団の活動として「救急法」「健康生活支援講習」及び「幼児安全法」の講習を普及できるよう、団員の中から講習指導員を養成するとともに、講習指導員である団員へは研修会を実施し、その費用の一部を助成した。

<令和5年度指導員養成実績>

- ・救急法指導員・・・7団8人

#### ウ. 地域赤十字奉仕団活性化事業

専門的な知識を持った地域赤十字奉仕団の活動を支援するとともに、地域でより信頼される団になってもらうため、赤十字防災ボランティア地区リーダーの活動や講習指導員がいる団の活動に対し、かかる経費の一部を助成した。

(ア) 地域赤十字奉仕団災害対応力強化事業 20団

(イ) 地域赤十字奉仕団講習普及事業 21団

(ウ) 地域赤十字奉仕団地域福祉活動推進事業 12団



【防災訓練での炊き出し研修】



【奉仕団員による人形劇】

#### (4) 特別赤十字奉仕団活動事業

特別赤十字奉仕団の活動を奨励するため、15団の特別赤十字奉仕団に対し助成を行った。



【テント設営研修】



【防災イベントでの青年奉仕団による防災普及】

#### (5) モデル奉仕団事業

「赤十字奉仕団活動推進指導要領」に規定される活動分野の中から、重点的な活動として推進する地域赤十字奉仕団2団に対し助成を行った。

団名	テーマ	指定期間
あま市赤十字奉仕団	救急法等の普及に関する活動	令和4～令和6年度
安城市赤十字奉仕団	社会福祉施設における活動	令和4～令和6年度



【児童館での児童安全法講習普及】



【福祉施設での読み聞かせの様子】

#### (6) 奉仕団員の育成（研修会の開催）

##### ア. 養成研修

研修	開催年月日	場所	参加者
基礎研修会 (第1回)	令和5年6月21日	愛知県支部	17人
基礎研修会 (第2回)	令和5年6月27日	愛知県支部	23人
基礎研修会 (第3回)	令和5年6月30日	愛知県青年の家	17人
リーダーシップ 養成研修会	令和5年9月7日、8日	日赤愛知医療センター 名古屋第二病院 災害管理センター棟	20人
青年奉仕団 基礎研修会	令和5年7月8日	愛知県支部	24人

青年奉仕団 基礎研修会	令和6年2月17日	愛知県支部	5人
----------------	-----------	-------	----

#### イ. そのほかの研修

各奉仕団の主催で、自らの知識及び技術の向上を図るため、奉仕団内での赤十字講習の実施や防災にかかる研修や訓練等が実施された。

#### (7) 多文化共生

日本人も外国人も地域で共に暮らす対等な構成員として活動できる多文化共生社会の実現に向け、行政、国際交流協会、大学及びNPO等関係団体との連携を強化した。

#### (8) 赤十字奉仕団委員長会議

支部重点事業の紹介や、事業計画・年間予定の伝達を行った。

年 月	会 場
(第1回) 令和5年5月	愛知県支部
(第2回) 令和6年2月	各地域で開催

#### (9) 赤十字奉仕団愛知県支部委員会

年 月	会 場	内 容
(第1回) 令和5年5月	愛知県支部	愛知県支部における子ども・子育て支援事業、多文化共生事業等の推進について
(第2回) 令和6年2月	愛知県支部	令和6年度の奉仕団活動助成について

#### (10) 本社・ブロック主催会議、研修会

奉仕団の育成発展を図るため各種会議・研修に出席した。

#### ア. 本社主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者
中央委員会	令和5年6月1日～2日	日本赤十字社本社	1人
令和5年度支部赤十字奉仕団担当者研修会	令和5年4月14日	オンライン開催	2人
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	令和5年7月11日～12日	日本赤十字社本社	1人
令和5年度赤十字ボランティア・リーダー研修会	令和5年8月26日～28日	国立オリンピック記念青少年総合センター	1人

イ. ブロック主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者
青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議	令和5年6月10日～11日	福井県支部	3人
赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議	令和5年9月6日～7日	岐阜県支部	2人

(11) 赤十字奉仕団活動報告集

赤十字奉仕団間の情報共有を行い団活動の一層の充実を図るため、また、奉仕団の認知度の向上を図るため、「令和4年度赤十字奉仕団活動報告集」を発行した。

発行部数 450部

配 布 先 県内の奉仕団、地区・分区、図書館、県内メディア、県・市町村NPO支援センターなど

(12) 赤十字奉仕団支部指導講師

奉仕団の指導育成を図るために支部開催の各種研修会及び講師派遣型の基礎研修会等にて指導を実施した。

## 9. 青少年赤十字

青少年赤十字事業では青少年が赤十字の精神に基づいて、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成し、ひいては世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教職員並びに教育行政機関の理解と協力を得ながら事業を展開している。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、計画をしていたすべての事業を進めた。

### (1) 加盟状況

(令和5年度末現在)

地区	小学校		中学校		高等学校	
	学校数(校)	メンバー数(人)	学校数(校)	メンバー数(人)	学校数(校)	メンバー数(人)
名古屋	182	62,995	69	30,168	県立 70 名古屋市立 12 私立 25 専修他 11	
尾張	110	47,001	51	26,019		
知多・海部	116	45,650	50	24,400		
東三河	50	17,519	15	6,002		
岡崎	53	24,432	23	12,538		
刈谷・安城	41	22,249	20	13,758		
豊田	83	25,985	32	13,806		
私立	0	0	7	3,826		
国立	1	545	1	433		
計	636	246,376	268	130,950	118	43,086

その他	学校等数 (校)	メンバー数 (人)
保育所・幼稚園	56	6,329
特別支援学校	14	2,291

学校等数 (校)	メンバー数 (人)
合計	1,092

### (2) 指導者講習会・研修会・協議会等の開催

青少年赤十字の育成・発展のためには、良き指導者を得ることが肝要である。そこで、本社やブロック主催の行事に関係者を派遣するとともに、指導者を指導スタッフとして派遣した。また、支部においては、各種講習会や研究会及び発表会を開催した。

ア. 本社主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数 (人)	指導者 (人)
トレセン指導者養成講習会	令和5年5月26日～28日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	2	
指導者協議会総会	令和5年6月30日	本社	1	
青少年赤十字研究会	令和6年1月12日	本社	1	1
合 計		3 回	4	1

イ. ブロック主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者 (人)
指導者協議会長及び支部担当者研究会	令和5年6月2日	オンライン開催	2

ウ. 愛知県支部主催

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者 (人)
指導者協議会役員会（2回）	令和5年4月18日	名古屋市公会堂	28
	令和6年1月19日	名古屋市公会堂	23
指導者協議会総会	令和5年4月18日	名古屋市公会堂	263
第1回トレセン検討会	令和5年5月12日	愛知県支部会議室	16
第2回トレセン検討会	令和5年9月5日	愛知県支部会議室	16
指導者講習会	令和5年8月22日～23日	愛知県青年の家	65
トレセン・指導者講習会スタッフ打ち合わせ会	令和5年6月9日	愛知県青年の家	27
指導者講習会実践発表会	令和6年1月27日	愛知県支部会議室	69
指導者協議会講演会	令和6年1月19日	名古屋市公会堂	206
高校メンバー連絡会（2回）	第1回令和5年5月27日	愛知県支部会議室	52
	第2回令和5年11月4日	愛知県支部会議室	39
指導者協議会専門委員会（5回）	令和5年5月24日他	愛知県支部会議室（4回） 紙面開催（1回）	36
高校活動発表会	令和6年2月3日	愛知県支部会議室	66
高校指導者研究会（2回）	第1回令和5年5月27日	愛知県支部会議室	17
	第2回令和5年11月4日	愛知県支部会議室	11
合 計		19回	934

(3) リーダーシップ・トレーニング・センター（略称トレセン）の開催

青少年赤十字メンバーのリーダーの養成と加盟校間の交流のため、地区別及び小・中学校、高等学校別にトレセンを開催している。

主 催	年 月 日	会 場	参加者（人）
名古屋地区	令和5年8月9日・10日	日本赤十字社愛知県支部	35
尾張地区	令和5年7月25日～26日	春日井市少年自然の家	97
知多・海部地区	令和5年7月22日～23日	愛知県美浜自然の家	143
岡崎地区	令和5年7月27日・28日	岡崎市少年自然の家	68
刈谷・安城地区	令和5年7月28日	碧南市勤労青少年水上スポーツセンター	36
豊田地区	令和5年8月17日・18日	日本赤十字豊田看護大学	103
支部（小・中学校）	令和5年8月1日～2日	愛知県青年の家	30
支部（高等学校）	令和5年7月29日～31日	愛知県青年の家	22
合 計			534

(4) 高校メンバー対象講習会の開催

高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダー養成のため、本社主催のスタディ・センターに高校生を派遣した。

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数 (人)	指導者 (人)
本社主催スタディー・センター	令和6年3月22日～26日	東照館	2	△

(5) 高校メンバー対象講習会の開催

青少年赤十字メンバーの質的向上と活動の活性化をめざして、救急法講習会を開催しており、令和5年度は内容ごとに3回に分けて開催した。

講 習 会	年 月 日	会 場	講 師	受講者（人）
救急法講習会				
・救急法基礎講習	令和5年8月24日			17名
・乳幼児の理解と支援講習	8月25日	愛知県支部	愛知県支部	6名
・災害時の乳幼児支援で役立つ 知識と技術講習	8月25日		救急法等指導員	6名

## (6) 活動研究推進校の研究発表

令和4・5年度研究推進校として、2校が研究に取り組んだ。名古屋市立稻西小学校は「自ら『気づき、考え、実行する』児童の育成～ICT 機器を効果的に活用して、自分の考えを広げたり、深めたりする活動を重視して～」をテーマに、豊橋市立汐田小学校は「人とのかかわりの中で、気づき、考え、よりよく生きる～心も元気！体も元気！笑顔あふれる汐田っ子の育成～」をテーマに研究し冊子にまとめた。

また、令和5・6年度の研究推進校として、2校が研究に取り組んでいる。半田市立雁宿小学校のテーマは、「課題に対し、粘り強く挑戦できる児童の育成－人との関わりや日常の活動を通して－」、岡崎市立六ツ美中部小学校のテーマは、「自分の成長を自覚し、未来を展望しながら学びに向かう子供の育成～個に応じた指導・支援・協働的な学びの一体的充実～」である。

高等学校は、愛知県立瀬戸西高等学校、名古屋市立菊里高等学校、愛知みずほ大学瑞穂高等学校の3校が研究に取り組み、活動発表会で研究の成果を発表した。

## (7) 機関紙「あいち青少年赤十字」の発行

青少年赤十字活動の充実と広がりのために、機関紙を3号発行し、加盟校の取り組みを紹介した。

形態	機関紙1回（7月発行）、壁新聞2回（11月・2月発行）
発行部数	機関紙6,300部、壁新聞7,400部（3,700部・3,700部）
配布先	加盟校並びに未加盟校など

【機関紙】

【壁新聞】

## (8) 奉仕活動

高等学校青少年赤十字の校外活動の一つとして、8月と12月に栄・名古屋駅・大須・岡崎・豊田の献血ルームにおいて献血の呼びかけ活動を行った。今年度は延べ39校、235名の生徒が活動に参加した。



【献血呼びかけ活動】

## (9) 子ども新聞プロジェクト

東日本大震災を契機として、被災者の経験や震災の教訓を未来に伝えていくため、赤十字が新聞社と協働して実施した。

「気づき・考え・実行する」という考え方のもと、小学生が子ども記者として、現在の防災・減災に関する取り組みを取材し、実際の新聞作りを行った。できあがった新聞は、県内の加盟校に在籍する小学校1年生から6年生を対象に約30万部配付した。また、加盟校にて子ども新聞を活用した公開授業を行った。



【防災・減災の取組について取材する子ども記者】

## (10) 防災教育

自分で判断して自分のいのちを守り、守ったいのちで他の人を助ける子どもを育てたいという思いを伝えるため、学校の要請に応じて、本社が作成した防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」や「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん」、及び愛知県支部のオリジナルの防災教材「いえまでごろく」「避難所体験プログラム」を行った。また、救急法の講習等を行った。



【授業で活用される防災教材】

## (11) 国際交流

海外赤十字社のメンバーや指導者と交流を行うことで、赤十字社の諸活動及び青少年赤十字事業について理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を目的に実施している。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和元年度よりモンゴル赤十字社からモンゴル国メンバーを受け入れることはできなかったが、令和5年度は、7月にモンゴル赤十字社からメンバー7名と指導者1名を受け入れた。期間中は、支部表敬訪問、学校訪問、ロッジステイなどを実施し、国際理解・親善を深めた。

また、11月には本社国際交流事業支部研修として、大韓赤十字社メンバー1名と中国紅十字会香港支部メンバー1名、大韓赤十字社指導者の1名を受け入れた。期間中は、支部表敬訪問、学校訪問、ホームステイなどを実施し、国際理解・親善を深めた。その後、引き続き行われた本社青少年赤十字国際交流集会に1名の高校生を参加させた。

種 別	期 間	参加者数 (人)
支部青少年赤十字国際交流事業 モンゴル赤十字社メンバー受け入れ	令和5年7月12日～ 7月19日	モンゴル国メンバー7 モンゴル国指導者 1
本社青少年赤十字国際交流事業支部研修 大韓赤十字社、中国紅十字会香港支部メンバー受け入れ	令和5年11月18日～ 11月22日	大韓民国メンバー 1 香港支部メンバー 1 大韓民国指導者 1

行 事 名	期 間	会 場	参加者数 (人)
本社国際交流集会	令和5年11月23日～11月26日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	1



【モンゴル赤十字社との国際交流】

## 10. 福祉事業

今日の社会情勢の変化や国民の意識の変化に伴う複雑・多様化したニーズに対応するため、当支部では日本赤十字社が有するあらゆる資源を活用し、人間の尊厳の保護をベースに地域のニーズを的確に把握し、保健・医療・福祉の総合的活動を展開するとともに、ノーマライゼーション理念の普及啓発に関する地域福祉活動推進要綱に基づき、赤十字の特色を生かした事業を展開した。

### （1）赤十字健康教室の開催

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を会場に地域住民の方々の健康管理・維持などの知識を高め、社会の一助となるよう赤十字健康教室を開催した。

第一病院		第二病院		合計	
回数	受講者	回数	受講者	回数	受講者
5回	248人	4回	175人	9回	423人



【名古屋第一病院での健康教室の模様】



【名古屋第二病院での健康教室の模様】

### （2）医療社会事業相談室事業

患者又は患者の家族が直面する苦痛を軽減し、療養環境をより安全で快適なものとするため、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院において、生活障害の軽減に向けての相談を受けつけ、一日も早く健康を回復し社会生活に復帰できるよう、指導と助言を行った。

第一病院	第二病院	合計
28,330人	11,615人	39,945人

### (3) 地域における新たな取り組み

それぞれの地域における社会課題を把握し、各地域で必要とされている社会活動を開いた。取り組みの実施にあたっては、行政、企業等協力のもと、下記の取り組みを行った。

#### ア. 子どもの「第三の居場所」づくり推進事業

独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）中部支社と協働で、子どもたちが家庭や学校以外で安心して過ごすことのできる「第三の居場所」を提供し、食事の提供や学習支援、団らんなど多くの体験機会を通じて、子どもの孤立、孤独の解消や子育て世代を支援する取り組みを名古屋市において実施した。



#### イ. 児童養護施設に入所する子どもたちの支援

家庭の事情などに影響されることなく、多くの子どもたちが多様な体験や経験を通じて様々なことに興味関心を広げるための取り組みとして、令和5年度は児童福祉施設に入所する子どもを対象として、赤十字が文化等に触れる機会を設けることで、子どもの体験機会の提供を行った。

#### ウ. 地域の支えあいを通じた高齢者健康生活支援事業

高齢者のひとり暮らしが増加する中、地域での孤立を防ぎ、社会参加を促し健康増進に資する環境づくりを目的として、介護・フレイル予防のための健康講座や健康チェックブースの設置、赤十字救急法講習の開催、移動や外出の支援など、企業等と連携して総合的に支援する事業を日進市と協働で実施した。



#### エ. 多文化共生事業の一環としての外国人学校における健康診断支援事業

愛知県支部では、これまでにやさしい日本語を使用した講習の普及や、外国にルーツのあるボランティアの養成など、多文化共生の取り組みを推進している。本事業の一環として、様々な事情により、児童生徒の健康診断が実施されていない外国人学校において、医師の派遣等を通じた健康診断実施の支援を協定締結地域である豊橋市にて実施した。



## 11. 国際活動

日本赤十字社は、自然災害や紛争により被害が発生した場合、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟の要請に応え救援活動を行うとともに、「自然災害への備え」と「疾病の予防」という2つに焦点をあて、開発協力事業を実施している。

当支部においても、本社の行う国際活動に呼応し、青少年赤十字海外支援事業（バヌアツ）、保健医療支援事業（バングラデシュ）に対する資金拠出を行った。また、その他にも第3ブロック各県支部と共同して、プライマリーヘルス・スケールアップ事業（レバノン）、給水・衛生災害対応キット整備事業（アジア・大洋州）及び地域保健強化事業（東アフリカ地域3か国）についても資金を拠出している。

紛争地や被災地で救援活動や復興支援、開発支援をおこなうため、医療スタッフを現地に派遣するとともに、救援金の受け付けを行っている。

### （1）開発協力

対象国	所要額	事業内容
バヌアツ	1,500,000円 (愛知県単独)	学校教育の中で防災減災に対する意識づけをすることにより、地域の災害に対する脆弱性を軽減するための事業
バングラデシュ	1,500,000円 (愛知県単独)	長期避難生活が見込まれるバングラデシュ南部避難民および地元コミュニティのレジリエンスの強化事業
レバノン	8,000,000円 (愛知304万円)	レバノンにおけるシリア難民の生活環境改善、特に給水・衛生分野、保健医療分野の支援を実施する事業
アジア・大洋州	6,000,000円 (愛知228万円)	洪水やサイクロンなどに見舞われる国や地域に給水・衛生キットを配備して、災害発生時に迅速に給水・衛生活動を行うための支援事業
東アフリカ地域 3か国	6,000,000円 (愛知228万円)	住民の保健、水・衛生、防災に関する知識を向上させ、その知識を用いて自身の健康といのちを守るための事業

### （2）国際救援活動

#### ア. 海外派遣

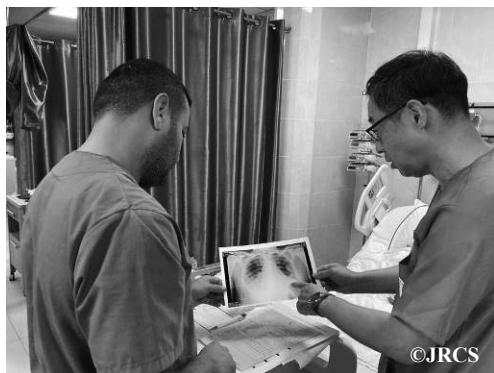
令和5年度は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院からウクライナ人道危機救援事業などに医師や看護師などのべ9人を派遣した。

名称	派遣先	派遣要員
国際赤十字・赤新月社連盟 保健要員	レバノン共和国	看護師 1人
	タイ王国	看護師 1人
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	バングラデシュ人民共和国	作業療法士 1人
ウクライナ人道危機救援事業	ウクライナ	理学療法士 2人
パレスチナ赤新月社医療支援事業	パレスチナ自治区（ガザ）	医師 1人
	エジプト	看護師 1人
国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)	IFRC 本部（リモート）	事務 1人
シェラレオネ中央こども病院サービス向上プロジェクト（JICA）	シェラレオネ共和国	臨床工学技士 1人

## イ. 本社の行う研修会等

国際医療救援拠点病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて、電気関連技術研修及び国際救援・開発協力要員のための集中英語研修を開催した。また、国際医療救援部付け研修や月例研修会を実施し、人材の育成を行った。

さらに、愛知県国際交流協会と協働し、赤十字の国際活動について広報活動を行った。



【パレスチナ赤新月社医療支援事業（ガザ）】



【バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業】

## ウ. 海外救援金の受付

赤十字が行う海外での災害時緊急援助や復興支援、開発協力のための救援金を受け付けた。

海外救援金	寄託額（円）
中東人道危機救援金	931,871
バングラデシュ南部避難民救援金	187,722
アフガニスタン人道危機救援金	527,792
ウクライナ人道危機救援金	7,846,042
2023年トルコ・シリア地震救援金	13,810,679
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	515,032
2023年モロッコ地震救援金	1,070,393
2023年リビア洪水救援金	827,481
イスラエル・ガザ人道危機救援金	2,581,845
2023年アフガニスタン地震救援金	222,399
海外罹災者救援金（無指定）	235,028
青少年赤十字活動資金（一円玉募金）	737,447
合計	29,493,731

## （3）安否調査

消息不明者を捜す安否調査は赤十字の国際事業の一つであり、国内外（本社経由）からの依頼に基づき調査を行っているが、令和5年度の取り扱いはなかった。

(4) 赤十字通信

赤十字通信は、捕虜・抑留者等の消息について赤十字国際委員会を通じ家族や知人に届けるものであるが、令和5年度の取り扱いはなかった。

## 12. 赤十字の普及

毎年5月の赤十字運動月間に、テレビやラジオを媒体としたCMの無償放送の依頼をするほか、県内の法人・団体の協力による赤十字を通じた社会貢献事業の推進による赤十字普及を図った。また、パートナーシップ協定を締結しているプロスポーツチームの試合会場にて、PRブースの出展を行うとともに、SNSを活用した広報を積極的に行うことにより、赤十字事業への理解・協力につながる取り組みの発信を行った。

### (1) 愛知県内での広報活動

ア. テレビ（民放5社）、ケーブルテレビ（12社）、ラジオ（AM2社・FM1社、コミュニティFM7社）を通じた赤十字CMの放送

イ. パートナーシップ協定を締結している地元プロスポーツチームと協働した赤十字事業の推進



### (2) 地域型赤十字フェスティバルの開催

県内各市区町村で実施される福祉まつり等に支部・施設・地区分区・奉仕団が協働し赤十字コーナーを出展するなど、一般県民に対して活動の普及を図った。

### (3) 地域のための防災・減災訓練

地域の「自助」「共助」の力を高めることを目的に、愛知県支部が行っている「地域のための防災・減災訓練」を令和5年度は田原市で開催した。

地域住民による避難所開設訓練と連携した医療救護実働訓練に加え、地域奉仕団や関係機関の協力を得ながら、地域住民の方々に赤十字防災セミナー等を実施したほか、地元の小学校では全校児童を対象に防災教育プログラムを行うなど、幅広い世代の方々に、防災・減災について普及啓発を行った。



(4) 広報紙「日赤あいち」の発刊

発行回数 年4回

発行部数 86,000部

(5) フォトニュースの発行

発行回数 年2回

発行部数 6,000部

(6) 愛知県赤十字有功会

愛知県赤十字有功会は、日本赤十字社金色・銀色有功章受章者の有志により世界の平和と人類の福祉のため活動する赤十字の支援団体として昭和52年6月6日に結成され、赤十字の社資募集の協力等の事業を行っている。

会員数 310名（令和5年度末現在）







人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

日本赤十字社愛知県支部

<https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/>